

札幌くらぶの活動

担当者名 事務局長 武藤 義典

1. 沿革

1996年8月に設立され、その年の12月、最初の交流会を開催、1997年1月、会報「札幌くらぶ」創刊号を発行、同年11月、練習見学会を実施、1998年6月の総会で札幌くらぶコンサートの開催を決定し、翌年4月、第1回札幌くらぶコンサートを開催するなど事業を展開してきております。

これらの事業のうち、札幌くらぶコンサートは、札幌くらぶが政策提言した札幌市及び近郊の小学6年生全員を対象とするファーストコンサートの実現により、開催を第7回で一旦休み、現在、新たなコンサートを研究、検討しており、練習見学会も札幌のゲネプロ一般公開により中止しておりますが、札幌との交流会は毎年2～3回の開催が続けられています。会報は今年9月で40号を数えることとなります。そして41号以降レイアウトを一新するなどリニューアルした会報「札幌くらぶ」を検討しております。また、2006年4月の総会において、札幌に対する楽譜支援金制度を創設、同年から年間50万円を楽譜購入のための支援を開始しました。

会員は、1999年400名、2003年500名、2004年600名、2005年700名を超えました。

2. 活動状況

2005年、札幌くらぶ創設10年を迎えるにあたり、会員、札幌、有識者からの提言を得て、札幌くらぶの活動のあり方を検討してきました。その中から会員が直接参加し、支援していると実感でき、早い時期での実現可能な活動として「楽譜支援」を実施することとし、2006年4月の総会において、札幌に対する楽譜支援金制度を創設、同年から楽譜購入のため、年間50万円の支援を開始しました。

2006年度の楽譜支援金は、札幌ポップス、10月定期演奏会、二期会定期公演などのコンサートの楽譜、その他音楽教育プログラムなどに使用される9曲の楽譜の購入に使用されました。購入された楽譜には「札幌くらぶ提供」の表示がされ、使用する楽団員に周知されています。

楽譜支援金は、ホスト会員年会費2,500円のうち500円を充てるほか、年会費支払いの際に任意の追加支援を募集して充てています。会員からは直接支援しているという現実感が持てる、維持会員は金銭的に難しいけれど楽譜支援は任意の追加金額で無理なく支援ができるなど会員の評判もよく、追加支援にはホスト会員500名のうち115名が応じてくれています。